



<http://www.shinshiyou.com>

〒221-0055 横浜市神奈川区大野町1-25 横浜ポートサイドブレイス509 アネックス5F
TEL. 045(440)3210 FAX.045(440)3209

発行元／公益社団法人神奈川県私立幼稚園連合会

発行人／会長 小澤 俊通

編集人／神私幼総務部(広報室)

発行／年4回(6月・9月・12月・3月)

発行部数／1700部



2

会長挨拶 充実の二学期に向けて

公益社団法人神奈川県私立幼稚園連合会 会長 ●小澤 俊通

3

平成29年度 予算要望について

振興部長 ●石井 和則

4/5

研修事業部・研究部 活動報告

- 中堅教諭対象研修会
学びの物語の真髄を探る遊びを可視化するための手立て
- 中堅教諭対象研修会
表現活動を通して、子どもの育ちに寄り添った視点を持つ
- 免許状更新講習
夏の免許状更新講習を終えて～暑かった二日間～
- 文部科学省委嘱 平成28年度幼稚園教育理解推進事業
幼稚園教育課程等神奈川県研究協議会
- 新規採用教員研修会
夏期新規採用教員研修会を終えて
- 関東地区教員研修埼玉大会
暑い夏の熱い想いを感じて…

INDEX

6

県父母の会連合会委員総会開催報告

振興部次長 ●仁藤 一成

神奈川県私立幼稚園父母の会連合会

会長就任のご挨拶

神奈川県私立幼稚園父母の会連合会 会長 ●鈴木 妙子

教育相談室 慣れですね 教育相談員 ●鈴木 敦子

7

平成28年度 就職相談会報告

既卒者向けセミナーも準備進む

経営管理部 次長 ●浅谷 学

新制度担当特別委員会

難題・新制度 ～護送船団方式から単独航行へ～

委員長 ●山口 繁美

横浜DeNAベイスターズへ感謝状

球団の夢ある取組みにありがとう

8

研修会報告

Pride of KANAGAWA

平成28年度 神奈川県連合会加盟園数・園児数

会長挨拶

充実の二学期に向けて

日頃より県連諸事業へのご協力に感謝申し上げます。五月の総会において、全ての議案が承認され、県連の役員も新たに選出されました。役員一同心を合わせて県内全ての私立幼稚園発展のために努力して参りたいと存じます。また各部は「承認頂いた事業計画に基づき、様々な事業を展開しております。引き続きのご支援・ご協力をお願い申し上げます。」



公益社団法人
神奈川県私立幼稚園連合会

会長 小澤俊通

新制度は二年目を迎える

子ども・子育て支援新制度は、丸一年を経過しました。課題を抱えながらも、現場の先生方や行政担当者のご尽力により、二十七年度は何とか無事に運営がなされました。県連では新制度を検証するべく特別委員会の名称を「新制度担当特別委員会」とし、新制度移行園の抱える課題や市町村の対応の違いなどを情報交換したいと考えています。そして引き続き新制度の改善点などを提案し、それぞれの市町村に対応して頂けるよう働きかけて参りたいと存じます。

六月には県連主催の研修会、さらに横浜協会と共催した研修会を連続開催致しました。平成二十九年度の移行について市町村からの調査が実施される前に、有益な情報を提供できなかったのではないかと思います。両研修会は共に一〇〇名を超える参加者があり、皆さんは真剣に耳を傾けておられました。移行した園の発表からは、収入は増えたが支出も比例して増えたことや、処遇改善の対応に苦慮している事などを知ることが出来ました。移行した園は、当初の予想

より収入が増えた事で概ね「移行して良かった」と感想を述べておられました。勿論施設給付型になったことで、事務的負担の増大、応諾義務や利用調整への対応など苦労されていることも現実であると思います。加盟各園におかれては、地域の実情を把握し、園の将来像を構想しつつ、どの道を選択されるか賢明な判断をされるようお願い致します。

幼児教育振興法の成立に向けて

夏の参議院選挙においては、政権与党が過半数を維持し、引き続き政策を推進していくこととなりました。九月には臨時国会が召集され、日本にとり重要な法案が次々と提出される予定です。五月の国会において継続審議となりました「幼児教育振興法」も改めて審議されることとなります。昨年度は、幼児教育振興法制定を目指し、全国の幼稚園関係者が署名活動を行いました。最終的には四三二万人を超える署名が集まり、幼児教育関係者や保護者の願いを乗せた法律の一日も早い成立を祈らずにはいられません。幼児教育を国家戦略と位置づけ、

来年度の予算確保に向けて

この夏も神奈川県議会の各党派へ、そして県民局長（子ども未来担当局長兼務）や私学振興課及び次世代育成課へ平成二十九年度の予算要望を行ってまいりました。経常費補助金を始め、私学関係予算の増額と新制度移行園への財政支援の充実、私たち私立幼稚園の切なる願いです。平成二十八年度は園児一人当たりの単価が五千円を超える増額を実現して頂きました。担当課の皆様は、私たちと気持ちを一つにして、財政当局と折衝して頂いたと伺っています。

充実の二学期に向けて

二学期は大きな行事も抱えており、園児募集も始まります。私たちは創立者の建学の精神を大切にして、それぞれの私立幼稚園の歴史を積み重ねてきました。これからも幼稚園教育を磨き上げながら、未来を担う子どもたちを育て参りましょう。まだまだ残暑厳しい毎日が続きますが、お体をご自愛なされ、幼稚園教育の現場に立ち続けて下さるようお願い致します。皆様の声を受け止めながら、県連も私立幼稚園発展のために邁進して参りたいと考えております。

感謝の気持ちを持ちつつ、この流れを確かなものとするためにも、加盟園皆様の後押しが必要です。どうぞ変わらぬご支援をお願い申し上げます。

研究・研修活動の充実を

例年にも増して暑い夏でした。この暑さの中でも、多くの研究・研修活動が展開されました。研究部と研修事業部の先生方には時間をやり繰りして、この活動を支えて頂きました。詳細は両部からの報告に譲りますが、暑さ厳しい中での事業は体力的にも厳しく、事業によつては拘束時間も長くなり、本当に大変なことであつたろうと存じます。改めて心から感謝申し上げます。また、積極的にご参加を頂いた研修参加者にも御礼を申し上げます。

幼稚園教育の質の向上は私たちの永遠のテーマです。二学期以降も様々な研究・研修事業を展開して参りますので、積極的なご参加をお願い致します。

傾向にあることから1名であっても国の補助単価784,000円(年額)を受けられるよう要望。預かり保育推進費・地域開放推進費などに関しても引き続き増額を要望いたしました。その他、人材確保を図るために今年は県単独事業として次世代育成課の協力のもと既卒者の幼稚園教諭データを提供していただき、「就職セミナー」を開催することとなりました。なお引き続き県単独事業として支援を要請しました。さらに新規の要望として、緊急環境整備費(事業費上限200万円)について学校法人立以外の102条園に対しても1/3の助成金を受けられるように要請。また教育の質の向上や処遇改善が要求されている中、2種免許から1種免許を取得したい、認定こども園移行に伴い保育士免許を取得したいなど意欲的な教職員のための奨学金制度や、年々人材確保の困難な状況の折、1人新採用するのにもお金と労力がかかるため、採用した時の一時金として人材確保奨励金制度などの創設を要望いたしました。以上のような要望をさせていただきましたが、今後も国・県そして行政の動きには十分に注視して迅速な対応をしていきます。

平成29年度 予算要望について 教育の質の向上や処遇改善は 経常費の国基準単価が必須条件



振興部長 石井和則



日頃より私立幼稚園並びに認定こども園の諸先生方には、振興部に対するご支援・ご協力に感謝申し上げます。平成27年度4月より子ども・子育て支援新制度が施行され1年が経過しましたが、市町村の格差など課題がまだまだ多くあるように感じております。さて平成29年度県に対する予算要望にあたり、参議院選挙の関係もあり、例年より早い6月8日より自民党を皮切りに7月26日県議会・県進会、27日公明党・かながわ民進党、そして8月25日県民局とそれぞれ県連合会小澤会長をはじめ教育振興連盟渡邊会長、退職基金財団永保理事長、その他多くの関係諸役の先生方にも同行していただき順次訪問し、予算要望書を提出させていただきました。要望内容は下記のとおりとなっておりますが、毎年切に要望するのが何といっても経常費補助金(一般補助)の増額です。今年度の園児一人当たり単価は対前年度比5,314円の増額となりましたが、国の基準単価と比較しても28,000円以上下回っているのが現状であり、さらに国の基準単価に近づけていただけるよう強く要望いたしました。特別支援教育費補助については、年々対象児が増加

平成29年度予算要望内容

平成27年4月より子ども・子育て支援新制度がスタートし、県内私立幼稚園においては、国の動きが流動的で先の見通しが不透明な中、将来の幼稚園経営をどのような方向に舵を切っていったらよいのか、大きな岐路に立たされ一年を経過しました。県内新制度に移行した園はわずか17%にとどまり、ほとんどの園が私学助成を選択する結果となり、新制度への課題や改善点が色々と浮き彫りになりました。

人口の減少、少子化、待機児童対策、母親の就労希望に伴う入園児の減少など社会構造の変化にともない、多様な教育・保育のニーズにたいして柔軟に対応していくことで待機児童解消や幼児教育の質の向上などにつながっていくと考え、今後の一つの政策提言として要望申し上げます。

次代を担う子どもたちのために、私学助成を受ける園、新制度に移行する園それぞれが、私学の独自性を発揮し幼児教育の質の向上と永続的な園経営の発展に向け、平成29年度予算・施策要望を次のとおり取りまとめましたので、予算・施策として実現されますようお願い申し上げます。

1. 経常費補助金(一般補助)の充実

平成24年、国会における「子ども・子育て支援三法」の可決審議に際し、衆議院及び参議院において、「施設型給付を受けない幼稚園に対する私学助成及び幼稚園就園奨励費補助の充実に努めること。」との附帯決議が行われております。

県においては、平成28年度私学振興費予算について、園児一人当たり単価前年度対比5,314円の増額措置が行われました。関係者の皆様のご支援に厚く感謝を申し上げます。しかしながら、依然として国の基準単価と比較すると園児一人当たりの補助額は2万8千円以上下回っている状況にあります。施設型給付に移行せず私学助成を受ける幼稚園として継続する園に対して、教育の質の向上、安定的な人材確保及び教職員の処遇改善にもつながる経常費補助金(一般補助)について、国の基準単価を実現されるよう更なる単価の増額措置をお願いいたします。

尚、園長職加算は実現しましたが、第1種教員免許所持者の加算および教職員の勤続年数に応じた加算が行われていません。保育所の保育士には処遇改善が進められており、幼稚園教諭にも同様な対応が求められます。教育の質の向上はもちろんのこと教職員の待遇改善にもつながりますので、加算要件への導入をご検討下さるようお願い申し上げます。

2. 経常費補助金(特別補助)の充実

①特別支援教育費補助

特別な支援を必要とする子を持つ保護者は、幼稚園という環境の中で共に学び育つ幼児教育を願っています。しかし、特別な支援が必要とされる幼児数は年々増加し、幼稚園での受け入れも難しくなっているのが現状です。

現在、対象児が2名以上在園している場合は、国の特別支援教育費補助として園児1名当たり784,000円(年額)が補助されております。

しかしながら、対象児が1名の場合は、県の単独補助にて半額の392,000円(年額)しか交付されていない状況にあります。

是非とも県単独補助を拡充し、対象児1名から784,000円(年額)の補助を措置して下さいようお願い申し上げます。

②預かり保育推進費

県内私立幼稚園の9割以上の園が預かり保育を実施しています。両親共働きの家庭が年々増えてきていることから、預かり保育に対する需要が増えてきています。

また、平成28年4月には、文部科学省より「幼稚園における待機児童の受け入れについて」の文書が発信され、預かり保育等の充実が求められています。

預かり保育の人材確保や保護者負担の軽減を図るためにも、預かり保育実施園に対し、更なる補助金額(補助単価)の増額をお願いいたします。

③地域開放推進費

子育ては家庭の中だけでは機能しなくなっているのが現状です。地域・社会という大きなコミュニティの中で子どもを共に育てていこうとする姿勢が大切になってきています。

幼稚園という環境が子ども、保護者を育て、地域社会の活力の源になっていきます。地域の遊び場、子育て相談、子育て講演会、親子のふれあい、お年寄りとの交流など、人とひととが触れ合う絆を育む事業として地域活性化プロジェクトとして更なる補助金の充実をお願いいたします。なお、この事業は県下約5割の幼稚園が実施しています。

補助対象でない102条園(学校法人立以外の園)にも補助制度が適用できるようご検討をお願いいたします。

3. 102条園(学校法人立以外の園)に対する緊急環境整備費補助金について

「緊急環境整備費(事業費上限200万円)」においては、現在認定こども園には2分の1、学校法人立幼稚園には3分の1の補助金が支給されています。

この補助金を活用し、教育環境の更なる向上に取り組んでいるところです。今後は学校法人立のみならず、全ての私立幼稚園において広く幼児教育の環境整備が必要であると考えています。

つきましては、102条園(学校法人立以外の園)に対しても学校法人立並みの3分の1の緊急環境整備費補助金の創設をお願い申し上げます。

4. 幼稚園教諭の人材確保への支援

平成25年度より神奈川県が保育所の人材確保を図るために開設した「保育人材バンク」と同様に、次世代育成課から提供された既卒者の幼稚園教諭のデータを元に、本連合会では、幼稚園教諭志願者のための「就職セミナー」を、平成26年度、平成27年度と2年間続けて開催してきました。

幼稚園教諭免許取得者と保育士資格を有する者が多い実状があり、幼稚園と保育所それぞれが人材を確保する必要も切迫している中、本年度も幼稚園教諭志願者のための「就職セミナー」の開催を計画しているところです。

しかしながら、本連合会単独での幼稚園教諭のデータ収集は困難であり、有効な人材確保に向けて、今後も県単独事業として調査を実施され、引き続き既卒者の幼稚園教諭のデータの提供による、「就職セミナー事業」への支援をお願い申し上げます。

5. 教育条件向上の支援について

①教育の質の向上や処遇改善が要求されている今日、2種免許から1種免許にランクアップしたいという教職員が大学などで積極的に学べるよう新たな奨学金制度の創設をお願いいたします。

②年々人材確保の困難な状況になっています。新採用をしたときの一時金として人材確保奨励金等の創設をお願いいたします。

研修事業部・研究部 活動報告

中堅教諭対象研修会

ウエンディ・リー氏 講演会

学びの物語の真髄を探る 遊びを可視化するための手立て

研修事業部 佐伯妙有

七月十六日に鎌倉女子大学、十九日に玉川大学と二回にわたってウエンディ・リー先生の講演が行われました。リー



Dr. WendyLee氏

先生はマーガレット・カー先生と共に、世界的にも有名なニュージールランドのテ・ファリキという教育カリキュラムを作成し、このカリキュラムを運用する手段としてラーニング・ストーリー「学びの物語」という子どもの見取り方を考案された方です。

今回、鎌倉女子大学の先生方の要請で来日講演をしていただくことになり、県連もこの企画を後援し、中堅教諭対象研修会として参加させていただきました。県連からも鎌倉で約一五〇名、玉川で約六〇名と多くの先生方が参加しました。

講演では先生の生い立ちから、なぜこの世界に携わって幼児教育の重要性を感じたかから始まり、テ・ファリキ、ラーニング・ストーリーについてわかりやすく講演していただきました。子どもは毎日の遊びの中で多くの経験をしています。そこから子どもの学びに気づいて、どのような学びが起きているか分析し、その学びを考え直したり答えたり、さ

らに伸ばしてサポートすることが大切です。その内容を写真や文章でファイルして、教師・親・子どもたち、みんなで子どもの育ちを共有する中で、それぞれの主観が集まることで、より客観的にその子を見ていくことが出来るとお話いただきました。リー先生のお人柄と温かい話し方で、国境を越えて子どもへのまなざしが私たちの胸に入り込んで大変感動した講演会でした。

中堅教諭対象研修会

横浜美術館・子どものアトリエ

表現活動を通して、子どもの育ちに寄り添った視点を持つ

研修事業部 長澤英子

七月二〇日、横浜美術館・子どものアトリエで主任指導員の山崎優先生の指導の下、描画をメインにした表現活動の研修が行われました。「子どものアトリエ」の目的はアーティストの育成ではなく、表現活動を通して子どもの育ちに寄り添った視点を持つことです。参加者はそれぞれの活動の教育のねらいを理解しながら、山崎先生から子どもの心もちを肯定的に捉える言葉がけを学びました。

《KAKEERA》

段ボールの切れ端にルミカラー（蛍光絵の具）を使用して思い思いに描き、全員の切れ端を一同にレイアウトします。照明を消して、ブラックライトを当てると感動的な光景が現れます。また、幾つかを繋げて吊るし、天井からの造形を楽しみました。

時期を知らなかったり、受講の方法等がわからない先生がいらっしやいます。加盟園の設置者・園長先生の皆様におかれましては自園の教諭の免許状況を把握していただき、更新もれないようにお願いいたします。

二日間の研究協議会で多くの事を学びました。特に私学の提案は、ありのままの実践を飾ること無く素直に報告・提案をしたため、参加者もうなずきながら聞いていました。この協議会は、公私立合同で同じテーマに向き合い研究を深めるところに意味があり、参加者も幼稚園のほか小学校、保育所、小規模、大規模と混在し、立場を超えて課題に取り組んだところに意義がありました。

新規採用教員研修会

鶴見大学

夏期新規採用教員研修会を終えて

全体運営委員 鷲尾紀行

研究部次長 黛 裕治

七月二十五日
講演「思考力の芽生えを育む保育と小学校教育との接続」
聖徳大学・教授 篠原 孝子先生
七月二十六日
講演「幼稚園教育のインクルーシブの視点」
明星大学・教授 星山 麻木先生
・分科会
第一分科会
（協議主題）幼稚園教育要領の理念を実現するための各幼稚園における教育課程の編成、実施、評価、改善の一連のカリキュラム・マネジメントの適切な実施について
提案 ぎんなん幼稚園・副園長 林 寛子
記録 ぎんなん幼稚園・園長 綴喜 誠淳
助言者 安部幼稚園・園長 安部 富士男
第二分科会
（協議主題）特別な支援を必要とする幼児の状態等に応じた計画的 組織的な指導の在り方について
提案 サクラノ幼稚園・主任 丹羽 瞳
記録 サクラノ幼稚園・主任 大槻 はるか
助言者 鴨居幼稚園・園長 今井 恵子

県連の関わる新採研は、公立と私立合同の二回の研修会を含めた七日間、全十二の講座を設定し、県内（横浜・川崎・相模原の政令指定都市を除く）の幼稚園（認定こども園含む）に、採用された約二〇〇名の教員を対象に開催されています。今年の夏期の私学単独研修では、鶴見大学に会場のご協力をいただいで酷暑の中、無事に終えることが出来ました。年度当初の五月には少し緊張し初々しく受講していた先生方も、少しずつ経験を積み重ね、先輩と共に各講師に多くを学び励まされ、今では自信も付き、頼もしくも感じられる程に成長しました。

今年度の研修の内容

○神奈川の私立幼稚園
小澤 俊道（神奈川県私立幼稚園連合会 会長）
○保育者としてのスタート―新人に求められるもの―
塩 美佐枝（聖徳大学 教授）
○体験しようアドベンチャー教育①②（公私立合同）
白山 明秀（玉川大学 TAP センター）
○幼稚園教諭の役割―初任者の自覚と責任―
平山 許江
（青木教育研究所 所員 立正大学大学院 非常勤講師）



《イロミズ》

明るい色から濃い色へ…、絵の具を溶いたいろいろな色水を少しずつ加えていくと、思いがけない色との出会いがありました。

《主観的な描画と客観的な描画》

床一面に敷いた紙に自分の「想像の花」を自由に思い切り描いてみます。次にヒマワリの観察画を試みます。自由な表現と客観性の獲得はいずれも子どもの育ちにとって必要なもの。対象を言語化することによってイメージすることに繋がります。

子どもの表現の経験値を高めるための言葉がけは、育ちの経験値を高める言葉がけと同様です。

「こうしたら面白いかな…」クリエイティブな好奇心から多くの出会いが生まれます。今回の研修で体験した、遊び心をエッセンスにした表現活動を、それぞれが保育の現場で生かしてほしいと思います。

○子どもの成長の「見える化」と、保育者の成長
小泉 裕子（鎌倉女子大学 教授）
○造形で保育は変わる
平田 智久（十文字学園女子大学 教授）
○よりよい保育を実践するために―幼児理解と指導計画―
佐藤 康富（鎌倉女子大学短期大学部 教授）
○実技
・音楽 楽器遊びの導入から簡単合奏まで
細田 淳子（東京家政大学 教授）
・絵本 子どもと仲良くなる方法
松本 和美（鶴見大学短期大学部 教授）
・自然 身近な自然と子どもをつなぐ植物あそび
佐藤 英文（東京家政大学 教授）
・体を動かす遊び 幼児期の運動
朴 淳香（静岡県立大学短期大学部 教授）
（敬称略）

関東地区教員研修埼玉大会 大宮ソニックスシティ

暑い夏の熱い想いを感じて…

研修事業部次長 山崎和子

●外部ゲスト
相馬 靖明 先生
（和泉短期大学・准教授）
●内部ゲスト
森本 壽子 先生
（鎌倉女子大学幼稚部・部長）
●コーディネーター
山崎 和子 先生
（鶴見大学短期大学部附属二松幼稚園・園長）
●問題提起者
泉 紗耶 先生
（平間幼稚園・教諭）
櫻井 喜宣 先生
（さくら幼稚園・副園長）
去る八月二十三・二十四日に毎年恒例となっている関東地区教員研修埼玉大会が行われました。
初日は心臓外科医天野先生の記念講演を拝

教員免許状更新講習

鶴見大学

夏の免許状更新講習を終えて 暑かった二日間

研修事業部長 田中伸宜



八月四・五日、鶴見大学のご協力のもと、必修・選択必修の十二時間の幼稚園教諭免許状更新講習を開催しました。

平成二十七年に免許法規則の一部が改正され、従来の必修領域十二時間は、今年度から必修領域六時間と選択必修領域六時間の計十二時間の講習となりました

これは教員の勤務する学校種や免許種等に応じた講習が適時に提供される必要があることから、新たに設けられたものです。つまり受講者は、免許状更新講習規則第四条に基づき、必修領域講習を六時間以上、選択必修領域講習を六時間以上、選択領域講習を十八時間以上の計三〇時間以上を受講する必要があります。選択の十八時間は比較的各地で開催されますが、必修と選択必修は開催数や開催場所が意外と少ないので、県連としても欠かすことのできない免許状更新講習です。参加された先生方は丸二日間スケジュール調整をしてこの講習に臨みました。現職の先生方は勿論のこと、預かり担当など非常勤の先生方、現場を離れている先生方、今は保育所勤務で幼稚園教諭の資格をお持ちの先生方等、更新講習を受ける参加者は様々です。いずれにしても、現場の教諭として仕事をする以上は受講が必須です。

しかし、現職の教諭であっても、更新講習

聴し、『保育者は私の天職』そして、「子ども達の幸せのために決して妥協はしない」とあらためて気づかされました。

二日目、私はフォーラム2の「子どもとともに育つ保育者」にコーディネーターという立場で参加させていただきました。このフォーラムは時流に合ったテーマということで一〇名もの参加者があり、熱心に学ぶ先生方の姿がとても印象的でした。

平間幼稚園の問題提起は「現場に即した評価方法」保育者の指導力の向上」についてでした。評価方法を作成したものの、まだまだ課題ありとの事に対し、ゲストの先生より「様々な課題に気づいているので、もう既に一歩前に進んでいるのではないだろうか」との温かい助言がありました。

続いて「子どもの主体的な生活とは」というテーマで相和協会の協議の流れと、さくら幼稚園の「保育の質の向上を目指した実践提案」がなされました。「日々の生活の中で子どものやりたい」を確保することの難しさや、園内での保育者間の「対話」の重要性を参加者と共有した貴重な時間となりました。二学期に向けての良き学びの機会をいただき、あらためて問題提起の先生方、ゲストの先生方、そして埼玉の運営委員の先生方に感謝と敬意を表したいと存じます。ありがとうございました。





県父母の会連合会 委員総会開催報告

振興部次長
仁藤一成



神奈川県私立幼稚園父母の会連合会の委員総会が六月九日(日)にようちえん会館会議室で開催されました。全日本私立幼稚園PTA連合会の全国大会日程の関係で、例年より早い開催となりました。

総会は、成田友香・前年度父母連副会長の挨拶で開会し、小澤俊通県連会長、渡邊かほり・前年度父母連会長の挨拶、前年度父母連役員紹介後、石井和則振興部長が議

長に就任されました。

議事では、平成二十七年の事業報告と収支決算報告・監査報告が承認され、続いて今年度より会場が変更され、県立音楽堂で十一月八日に開催される、父母連研修大会の実施等を盛り込んだ二十八年度事業計画案と収支予算案が全会一致で承認されました。

次に平成二十八年度父母連役員の選出が行われました。委員総会において選出された常任委員並びに監事によって行われた常任委員会において、鈴木妙子さんが会長に選出され、不慣れですが頑張りますと、抱負を語りました。副会長は、中島乃里枝さんと石井智香子さんに決定しました。

平成28年度 父母連常任委員名簿

役職	氏名	園名(協会)
会長	鈴木 妙子	上の原幼稚園(横浜)
副会長	中島 乃里枝	矢向幼稚園(横浜)
副会長	石井 智香子	戸塚こばと幼稚園(川崎)
庶務	山根 マキ	川崎協立幼稚園(横浜)
庶務	谷村 祥子	宮前幼稚園(川崎)
会計	上潟口 令奈	第二逗子幼稚園(逗葉)
委員	篤 由貴絵	認定こども園伊勢原幼稚園(相央)
委員	森 美智子	ちぐさ幼稚園(厚木)
監事	青木 亮子	育美幼稚園(横浜)

平成28年度神奈川県私立幼稚園父母の会連合会研修大会

日時：平成28年11月8日(火) 9:30受付 10:00開会
会場：神奈川県立音楽堂
講師：内村 周子
(スポーツクラブ内村 指導者/内村航平選手の母)

神奈川県私立幼稚園父母の会連合会 会長就任のご挨拶

本年度、神奈川県私立幼稚園父母の会連合会の会長を務めさせていただきます、鈴木妙子と申します。

各幼稚園の園長先生をはじめ教職員の皆様、関係者の皆様方には、日頃より子どもたちと真摯に向き合い、幼児教育の充実・向上にご尽力いただいておりますことに心より感謝申し上げます。

公益社団法人神奈川県私立幼稚園連合会への加盟園数は五七七園、総園児数は十一万人を超えております。これは東京都に次いで二番目の規模の団体となります。その大きな団体の、父母の会連合会の会長という大役を仰せつかり、身の引き締まる思いでございます。与えて頂いたこの機会に感

謝し、これまで父母の会連合会が培ってきた実績を生かせるよう、微力ではございますが、邁進して参る所存でございます。



幼児教育は、人格形成の基礎を培う大変重要な時期であると考えられております。幼稚園は、子どもが生まれて初めて親元から離れ、社会生活を経験する大切な場です。その中で様々な経験を通して、感じ・考え・学び、そして協調性や自主性を身につけ、心身ともに大きく成長していきます。私たち保護者が、幼稚園・地域・行政と連携を取り合い、さらに子育て支援活動などにも

積極的に取り組み、精一杯努力することが、子どもたちの幸せに繋がると強く確信いたしております。父母の会連合会では、幼児教育に対する父母自身の理解と意識を高めるために、研修活動やセミナーなどを開催し、保護者の皆様とより多くの情報を共有できるよう活動して参ります。

また、教育費負担軽減に対する補助金確保等への要望活動にも積極的に取り組んで参ります。今後も父母の会連合会が、保護者の皆様との架け橋となり、子どもたちが社会の中心で輝き続けられる様、皆様と共に活動して参りたいと思っております。

今後とも皆様方の一層のお力添えを賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

神奈川県私立幼稚園父母の会連合会 会長 鈴木 妙子

平成28年度 就職相談会報告

既卒者向け セミナーも 準備進む



経営管理部次長 浅谷 学



神奈川県内の私立幼稚園・認定こども園への就職を望んでいる学生や考えている学生と、楽しみにしていることや不安に思っていることなどを共有することを目指して、今年度の就職相談会を七月二日(土)に開催しました。会場のがわやうちえん会館には養成校三〇校(大学十九校、短期大学六校、専門学校五校)から一七人(県内一〇九人、県外八人)が来場し、真剣な眼差しで説明に聞き入り、熱心に質問する姿が見られました。

開催に先立ち、前日には十二協会の担当の先生方と経営管理部員が集まり、会場の準備や協会ごとのブースを設けました。学生に向けた研修事業の紹介や地域の特徴を全面に打ち出すなど、創意工夫を凝らした設営が印象的でした。

当日は開場を待つ列もでき、遠くは青森県弘前市、岩手県盛岡市からの来場者がありました。結果としては前年度と同じ程度の学校数(三校減)と来場者数(十五人増)になりました。なかでも積極的な参加を促していたのか、ある養成校からは来場者の約四割にあたる学生が訪れていました。また、横浜での開催ということもあり、来場者の四割近くは横浜市在住者で、次いで一割強の川崎市在住者と続きました。

引き続き、七月にアンケートをお願いしました既卒者向け就職セミナーの準備を進めています。潜在幼稚園教諭の再就職を促すべく、皆様方のご理解とご協力をお願いします。



新制度担当特別委員会

難題・新制度

「護送船団方式から単独航行へ」

我々私幼は長い間、私学助成の恩恵を受けて園の運営を行ってきました。これは、私幼団体が国・県に圧力をかけて予算獲得をした成果です。これを「護送船団方式」と言います。そこに降って湧いた「新制度」。私は施設型給付の幼稚園に移行して一年の間、ルールとしては解かっていた

「新制度では自園対基礎自治体である市町村の関係」であると実感しました。今後、ルールの変革は期待できません。運用については改善がまだ可能です。そんな状況でフツと気づくと海原に自園だけ、制度について物申す事柄や手立てが見出せません。新制度では「単独航行」を余儀なくされていまし

た。一瞬、不安がよぎりましたが、自園を主体的に見直すことを忘れていたことにも気づきました。

新制度では大規模園は不利な状況があります。各幼稚園が今後を考える時、現状維持も選択肢ではありませんが、『現状変更して新制度へ』も選択肢の一つであります。幼稚園を「事業」と捉えるか、「学校」と捉えるかによっても選択肢が変わります。

新制度は幼稚園改革ではなく、社会制度改革の一環であることを忘れず、広く社会状況を見て考える必要があります。

この厄介な新制度を特別委員会では各協会と行政との状況や、この一年の移行した園の総括を出し合い情報交換をしています。来年三月まで、新制度二年目を検証していきたいと思ひます。



委員長 山口繁美



横浜DeNAベイスターズへ感謝状

球団の夢ある取組みに ありがとう

球団創立五周年記念企画として、横浜DeNAベイスターズから県内の幼稚園や保育所などへ通う子どもたち約七十一万人に、ベースボールキャップがプレゼントされました。

それをつけて、当連合会の小澤会長と幼稚園教育振興連盟の渡邊会長から、球団の池田純代表へ感謝状を贈りました。当日は好天に恵まれ、帽子を被ったたくさんの子どもたちが、家族と一緒に横浜スタジアムに応援と観戦に来ていました。感謝状の贈呈は、ベースタースのベンチの近くで行われたことから、試合前のラミレス監督と握手するハプニングもありました。私たちからは、球団の夢のある取り組みに感謝することをお伝えし、球団の池田代表からは、「子どもたちが帽子を被って外で思いっきり遊んで欲しい」とのメッセージをいただきました。



教育相談室 慣れですよね



教育相談員
鈴木 敦子先生
(臨床発達心理士)

痛い注射のせいとかそれ以来病院嫌いになったお子さんのお母さんから「でも慣れですよ。何回か連れて行けば大丈夫になりますよね」と尋ねられました。なりますか? 私は狭い所が比較的ダメですが(一度トイレの鍵が開かなくなった)、それを克服するためにわざわざ狭い所に行くとは思いません。

出来ないことがあるようにするにはある種の「納得」が必要です。病院もまんざら悪くないという情報を子どもに与えてみてください。数を数えれば注射もあまり痛くないとか、病院に行くとしールをもらえとか。そこで本人なりの納得がわずかでもできれば病院に連れて行くタイミング到来です。子どもなりの納得という「準備」ができていることが必要で、それなしでただ回数を重ねても親も子も嫌な思いをするだけだと思います。

相談の申し込み 電話番号 045-440-3210

電話にて公益社団法人神奈川県私立幼稚園連合会事務局へ申し込みください。

研修会報告

研究部主催

研修事業部主催

6月15日(水) 新規採用教員研修会 神奈川県立西湘地区体育センター 127人
「体験しようアドベンチャー教育 第1回」
玉川大学 TAPセンター 白山 明秀 先生

6月22日(水) 藤沢オープン講座 藤沢市民会館 48人
「保育に生かす腹話術の魅力」
全日本あそびの腹話術協会理事 ヘブナーアーティスト ぴっころECCO 鹿庭 悦子 先生

6月23日(木) 統合保育基礎講座 かながわようちえん会館 102人
幼児教育を考える「子どもと家庭をめぐる今日的具体的支援」
Nippon Date社会福祉研究所副所長・教育福祉研究室長 上原 文 先生

6月28日(火) 若手後継者のための保育勉強会 かながわようちえん会館 37人
「人のかかわりとモノのかかわりから保育を考える
ー主体性を育む保育を目指してー」
認定こども園立花愛の園幼稚園 理事長・園長 濱名 浩 先生
玉川大学教授・四季の森幼稚園園長 若月 芳浩 先生

6月29日(水) 新規採用教員研修会 かながわようちえん会館 144人
「幼稚園教諭の役割ー初任者の自覚と責任ー」
青木教育研究所所員、立正大学大学院非常勤講師 平山 許江 先生

7月14日(木) 厚木オープン講座 アミューあつぎ 74人
「みててーっ!」の声を引き出す運動遊びの実践!!
～やる気を引き出す力と、リズム活動の意義を考える～
日本遊育研究所主宰 NHK「おかあさんといっしょ」元体操のお兄さん 瀬戸口 清文 先生

7月16日(土) Wendy Lee氏講演会 鎌倉女子大学 143人
7月19日(火) 玉川大学 59人
「ー学びの物語の真髄を探る 遊びを可視化するための手立てー」
Wendy Lee 先生

7月20日(水) 中堅教諭対象講習会 横浜美術館 子どものアトリエ 67人
「子どもたちにどんどん求めよう! 求めなければ育たない。」
ー描画の活動・実技 クレヨン・えのぐー
横浜美術館・子どものアトリエ 主任コーディネーター 山崎 優 先生

8月4日(木)・8月5日(金) 教員免許状更新講習 鶴見大学 188人
「教育の最新事情」
8月4日(木) 鶴見大学短期大学部 教授 山室 吉孝 先生
8月5日(金) 鶴見大学短期大学部 准教授 橋本 弘道 先生

8月8日(月) 新規採用教員研修会 鶴見大学 000人
「子どもの成長の『見える化』と、保育者の成長」
鎌倉女子大学 教授 小泉 裕子 先生
「造形で保育は変わる」
十文字学園女子大学 教授 平田 智久 先生

8月9日(火) 新規採用教員研修会 鶴見大学 000人
「よりよい保育を実践するためにー幼児理解と指導計画ー」
鎌倉女子大学短期大学部 教授 佐藤 康富 先生
音楽「楽器あそびの導入からかんたん合奏まで」
東京家政大学 教授 細田 淳子 先生
絵本「子どもと仲良くなる方法」
鶴見大学短期大学部 教授 松本 和美 先生
自然「身近な自然と子どもをつなぐ植物あそび」
東京家政大学 教授 佐藤 英文 先生
「幼児期の運動遊び」
静岡県立大学短期大学部 教授 朴 淳香 先生

8月29日(月)～30日(火) 若手後継者のための保育勉強会 仙台認定向山こども園 000人(予定)
「保護者を巻き込む園運営の視点」
コーディネーター 玉川大学教授・四季の森幼稚園 園長 若月 芳浩 先生
認定向山こども園 副園長 木村 創 先生

8月30日(火) 男性保育者勉強会 かながわようちえん会館 40人(予定)
「自分らしさを活かすには」
和泉短期大学 准教授 相馬 靖明 先生

祝 Pride of KANAGAWA

平成28年神奈川県民功労者表彰
(教育・文化)

平成28年6月10日に神奈川県庁本庁舎において、
平成28年神奈川県民功労者表彰の表彰式が行われ、
教育・文化の分野において下記の先生方が受賞されました。
おめでとうございます。



学校法人明和学園
綾西幼稚園
理事長・園長
古郡 孔文 先生



学校法人白井学園
南横須賀幼稚園
理事長・園長
長澤 典子 先生

解説 県民功労者表彰

公共の福祉に貢献し、その業績が特に優れた方々に広く顕彰することを目的とした県の最高表彰の一つで、団体や地域の活動などを通じて社会福祉、保健衛生、産業・経済、教育・文化、生活環境、ボランティア活動など各分野で長年にわたり活躍し、特に優れた業績をあげた方に贈られます。

平成28年度 神奈川県連合会加盟園数・園児数				
協会名	園数	園児数	前年度園児数	前年度比
公益社団法人横浜市幼稚園協会	254	48,751	50,063	－ 1,312
公益社団法人川崎市幼稚園協会	82	20,556	21,238	－ 682
横須賀市私立幼稚園協会	30	4,734	4,865	－ 131
特定非営利活動法人藤沢市私立幼稚園協会	30	6,291	6,462	－ 171
鎌倉私立幼稚園協会	22	3,067	2,978	89
茅ヶ崎市私立幼稚園協会	16	3,250	3,268	－ 18
湘央地区私立幼稚園協会	41	6,390	6,469	－ 79
小田原私立幼稚園協会	12	1,396	1,397	－ 1
相和私立幼稚園協会	27	5,068	5,221	－ 153
一般社団法人相模原市幼稚園協会	38	7,765	7,907	－ 142
逗葉私立幼稚園協会	5	612	655	－ 43
厚木地区私立幼稚園協会	20	3,084	3,065	19
計	577	110,964	113,588	－ 2,624

県連設立 1948年(昭和23年)

編集後記

From the Public Relations Section

メダルがいくつ獲れるのかと期待していたオリンピック。始まっていきなりの金メダルラッシュに心が躍り、その後も沢山の選手が頑張って、様々な競技で日本初となるメダルを相次いで獲得していました。最近の選手は表彰台でのインタビューの応答もしっかりしていて、力・技と共に精神の確かさも滲み出ています。今回のオリンピックは、日本らしい心技一体の向上が実った素晴らしい大会となりました。4年後の東京オリンピックも楽しみです。

天候不順による災害や、人為的な悲しい・恐ろしい事件も増えています。自然災害に対しては不可抗力の部分もありますが、対処のできる所はなるべく被害が出ない様に心掛け、事件に対しては防犯対策による対処法だけではなく、事件を起こさなくなる様な心の教育を現在以上に進めていかなければならないと思います。教育の最初の段階を担っている私達は、プラス方向の教育に向かっていきたいと思います。

広報室員 熊坂 昌志